

人と企業の社会貢献を応援する

通巻275号 2023年10月1日(隔月1回1日発行)

Philanthropy

フィランソロピー

No.275

October 2023



特集

SDGs時代におけるシンクタンクの役割

特集

SDGs時代におけるシンクタンクの役割

頭脳団体であり、民主主義のインフラともいわれるシンクタンク。欧米では、政府とは異なる自由な立場で、政策形成に関与し、政権に影響を与える力を持つています。一方、日本では霞が関の官僚組織が最大のシンクタンクであり、欧米のような民間非営利のシンクタンクは発達してこなかつたと言われています。しかし、時代の転換期にあって、シンクタンクのあり方や機能が再び問われています。複雑化・深刻化する社会課題を解決するためには、市民、大学、企業、NPOなどさまざまなセクターによる「共創」が必要ではないか、という仮説のもと、健全なる民主主義社会の確立に求められるべき、シンクタンクの役割を探求しました。

巻頭インタビュー

大学シンクタンクとNPOの共創

特定非営利活動法人IKUNO・多文化ふらっと理事・事務局長

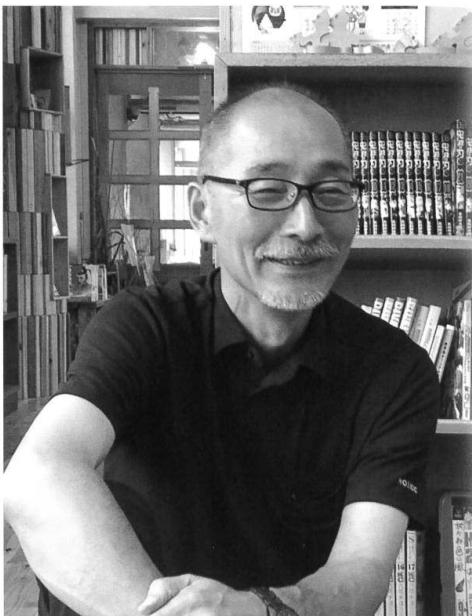
宋悟さん

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長・大学院経済学研究科教授

堂目卓生さん



堂目卓生さん



宋悟さん

「当事者」として目覚めた瞬間

——「いくのパーク」は、多文化共生の拠点として、場づくりや子ども支援にとどまらず、食、スポーツ、観光、ダンス、アートなど幅広い事業を展開しているのが印象的です。宋さんはそもそもどんな経緯や思いで多文化共生の取り組みに関わってこられたのでしょうか？

宋　ここは100年以上前から、在日のコリアンと日本人の共生の歴史がある地域です。私はここに住んで30年以上経ちますが、今はニューカマーが増えできました。今後10年、20年経つと、ますます多文化共生は切実な課題になり、それに伴って、生まれてくる子どもの貧困も深刻になります。そんな中で、2019年に多文化ふらっとを立ち上げました。「市民主導で多文化共生の拠点を立ち上げたい」と思っていた頃、再編に伴う小学校の跡地利用の公募プロポーザルがあつたんです。設立間もない小さな法人でしたが、SSIを含めいろいろな方に参画して

ちらつて、手を挙げました。

——法人を立ち上げるまではどんなことをされていたのですか？

宋　私は三重県出身の在日コリアン3世なのですが、高校生の頃は在日コリアンというアイデンティティはありませんでした。どちらかといふと、恥ずかしかったし、周囲にもどこか隠していました。でも大学に入った1980年頃、韓国では民主化運動が高揚してたタイミングでした。「膝を屈して生きるより、立つたまま死のう」というスローガンを掲げて身を粉にして闘っている韓国の大学生たちを見て、カルチャーショックを受けたんです。そこで、私の人生が決まりました。その後は、在日の団体に所属して、デモや集会、ハンガーストライキなどにも参加しながら、社会活動家として生きてきました。

——「当事者」として骨太な活動を続けてこられた宋さんのような方が関わる団体がある意味で中立的なSSIのような外部団体と



いくのパーク

宋 地域社会は、まだまだ旧態依然としている面があります。何か大きな変化を興そうとする時、影響力のある一部の年配の方たちから「その話は○○さんを通したか?」「お前たちに本当にできるのか?」と、地域ならではの政治性や慣習性の法則が働くことも珍しく、危うさや混沌さを抱きしめながら、前に進む勇気が必要です。

堂目 多様性を持ちながら前に進むには、強烈な共通性が必要だとも思います。これまでそれが「民族」だったのかかもしれません、これからは「人類」や「命」を共通項にするしかないと思つてます。「SDGs」にはいろいろな批判もありますが、世界全体で「これしかない」というよりどころを持つたという意味ではとても価値のあるストーリーガンです。人間は「Human Being」ですが、「Being」つまり「あるだけでいい」という考え方や場所が求められていると思います。「Doing」は何かすること、役に立つこと、が常に求められてきた近代から抜け出そうという意味です。

宋 逆説的ですが、「みんながいるだけでいい」という場を作つて、自然と皆それぞれに自分の役割を見つけていくんです。今は子どもも食堂や教育支援など、関わっていますが、この事業をし、一番おもしろいのは、関わっている

宋 明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

——現場で一人ひとりを支援する中でも、そうした社会の変化を感じることはありますか？

宋 明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

——明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

堂目 今は、誰もどこへ向かえばいいのか分からない時代です。だからみんなで考えるしかない。大学を出ていようが出ていまいが、健康だろうが病弱だろうが、みんな不安を抱えている。エリートたって実は脆弱で、自分を枠の中に位置づけて納得しようとするけれど、本当にそれでいいのか不安な気持ちを持っている。バルネラビリティ（弱さ、もろさ）を抱えているという意味では、みんな同じです。



喫茶室みゆきもり

——現場で一人ひとりを支援する中でも、そうした社会の変化を感じることはありますか？

宋 明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

——現場で一人ひとりを支援する中でも、そうした社会の変化を感じることはありますか？

宋 明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

堂目 た子どもたちと関わると、背後に、保護者の生活課題が見えてくる。保護者の暮らしは安定しないと、子どもも救えない。でも家庭環境自体を変えるのは、簡単なことであります。アウトリーチ型の支援で、相談援助のスキルを磨いて困っている人に知識を与え、法制度につなげていくなど、やれることはあるとは思いますが、どうやってもすぐには解決しない。5年、10年、下手をすれば20年かかるケースが実際に多い。そういうソーシャルワークがどんどん増えていく。

——現場で一人ひとりを支援する中でも、そうした社会の変化を感じることはありますか？

宋 明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

——現場で一人ひとりを支援する中でも、そうした社会の変化を感じることはありますか？

宋 明確なゴールに向かっていく時代は終わって、ゴール自体がどこか分からぬ時代ですね。単純化、効率化の誘惑にかられます。が、複雑なものは複雑なまま受け止めるしかない。

堂目 ローカルにやらないと、実のある実践にはならない。現場で深められたものを、シンクタンクが拡げていく。そういう作業の繰り返しかなと思います。

ローカルで民主主義を起動する

——こういう場での実践が、支えられた人と支えられる人の外側にいる、一般的な市民の感覚をも変えられることもあるのでしょうか？

宋 マイノリティを変えると同時に、マジヨリティも変えないといけないですよね。自治体の多文化共生の制度づくりを、当事者が主体になつて作つていけば、たら、とは考えていました。多文化共生については、「多文化共生基本法」のような基本法が存在しないので限界はありませんが、自治体の単位でできることは

堂目 市民と行政が一緒にまちをつくっていく、本来の民主主義ですね。偶然と戦略性を同時に生かしながら、いろいろな関係者が主体を持って関わる機運がローカルに生まれていくことが大事です。

——地域を本気で変えようとするときには、関係者からの反発もあつたりするのでしょうか？

宋 マイノリティを変えると同時に、マジヨリティも変えないといけないですよね。自治体の多文化共生の制度づくりを、当事者が主体になつて作つていけば、たら、とは考えていました。多文化共生については、「多文化共生基本法」のような基本法が存在しないので限界はありませんが、自治体の単位でできることは



未来共生セミナー いくのふらっとだいがく
シリーズ「多文化共生と表現活動」
vol.1、「生きることばを紡ぐ」

どうめ・たくお

1959年岐阜県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。立命館大学経済学部助教授、大阪大学経済学部助教授を経て、2001年に大阪大学教授。専門は経済学史、経済思想。未来社会を構想するシンクタンクとして、2018年に「社会ソリューションインシアティブ」(SSI)を立ち上げる。

<https://www.ssi.osaka-u.ac.jp/>

そん・お

同志社大学商学部、日本福祉大学福祉経営学部卒業。在日コリアンのNPOで若者育成や人権問題に取り組む。2004年3月NPO法人コリアNGOセンターの設立に参加し代表理事に就任（現在は理事）。2019年6月にIKUNO・多文化ふらっとを設立（2020年10月に法人化）、理事・事務局長を務める。

<https://www.ikunotabunkaflat.org>